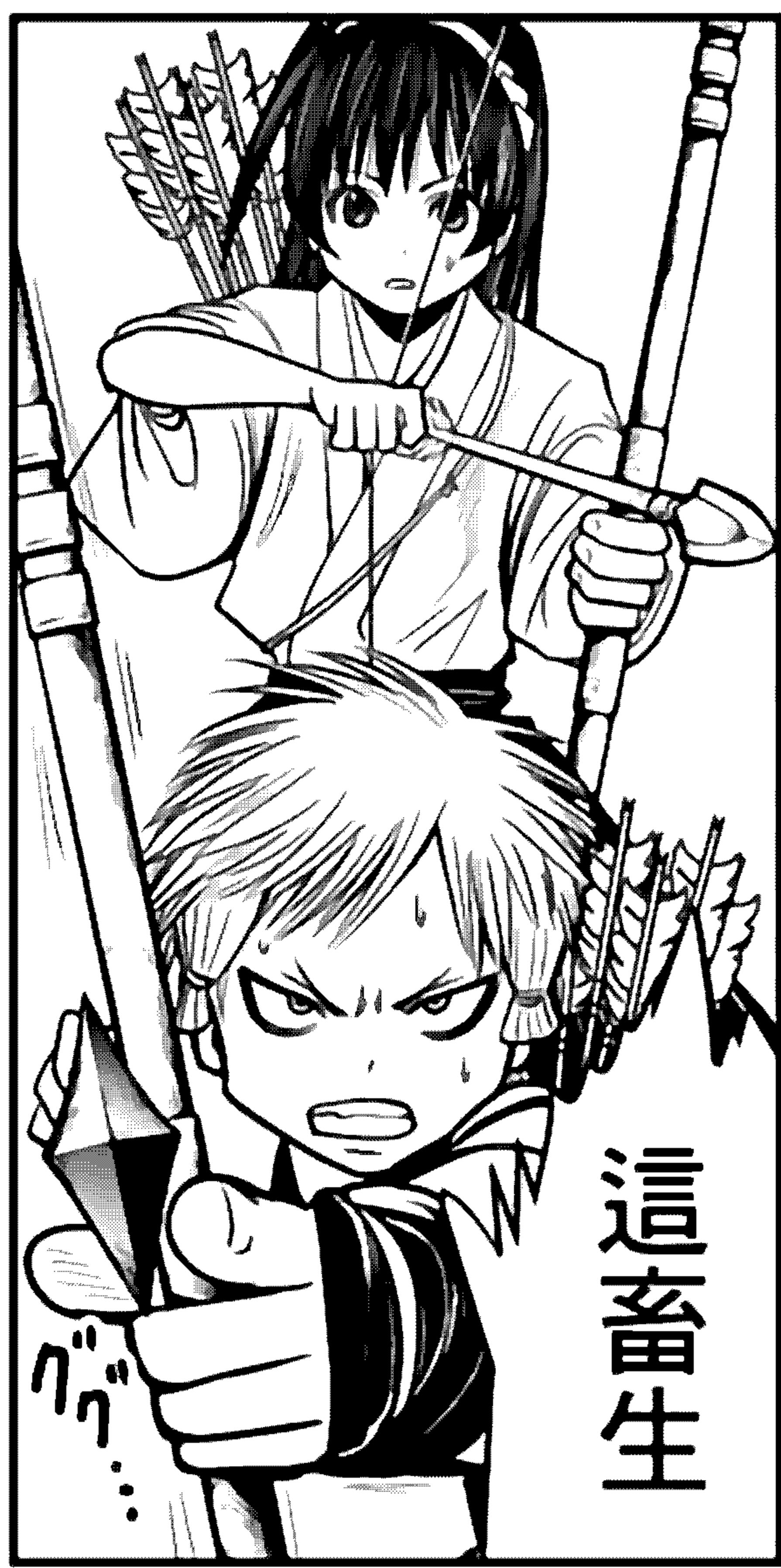
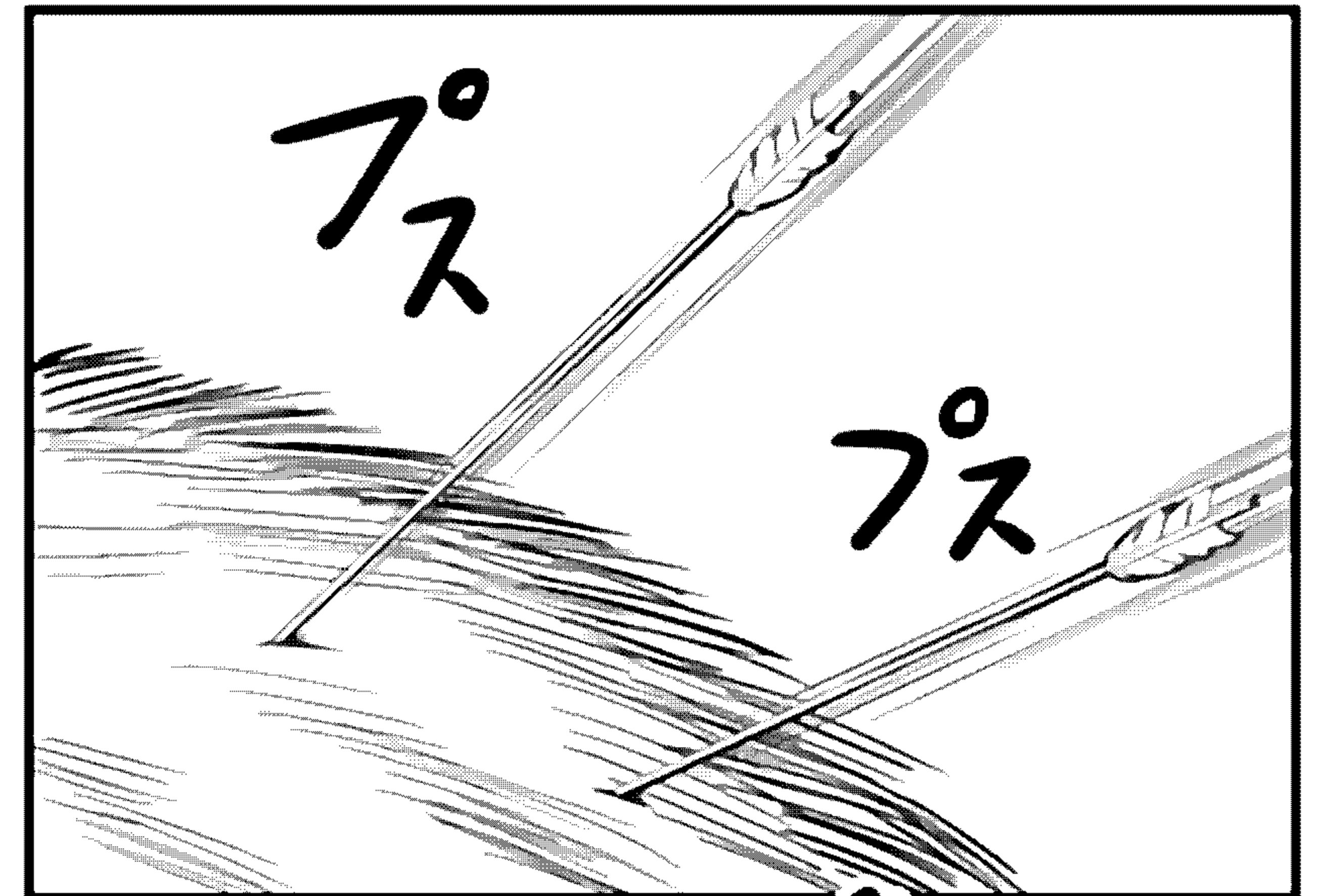


微  
神  
大  
蛇  
祭  
・  
林  
轉  
微  
信  
・  
御  
利  
&  
講  
明  
禁  
用





人物紹介



北条時行

北条家末裔。「逃げ」が武器。  
現代なら「逃走中」で無双。



諏訪頼重

諏訪大社当主。インチキ  
未来予知で時行を補佐。



足利尊氏

突如、鎌倉幕府に反旗を  
翻し滅ぼした。時行の仇。



微博首發◆禁轉微信營利&講漫禁用



時行大人

請您  
一邊躲閃  
一邊誘導  
那隻野獸

把它引到  
那座山丘上去

那棵孤零零的  
落葉松就是標記

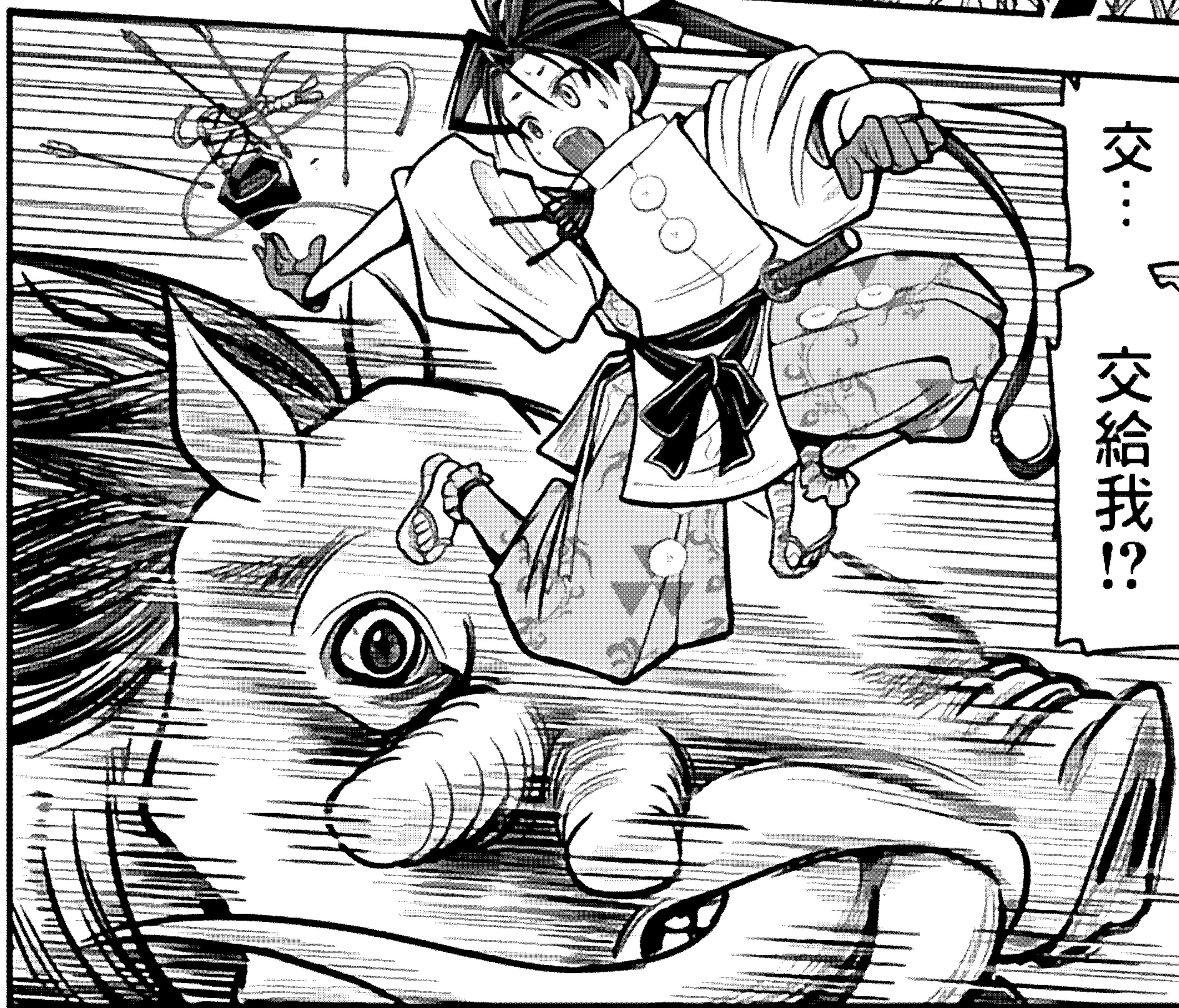
微博首发◆禁轉微信◆營利及議漫禁用

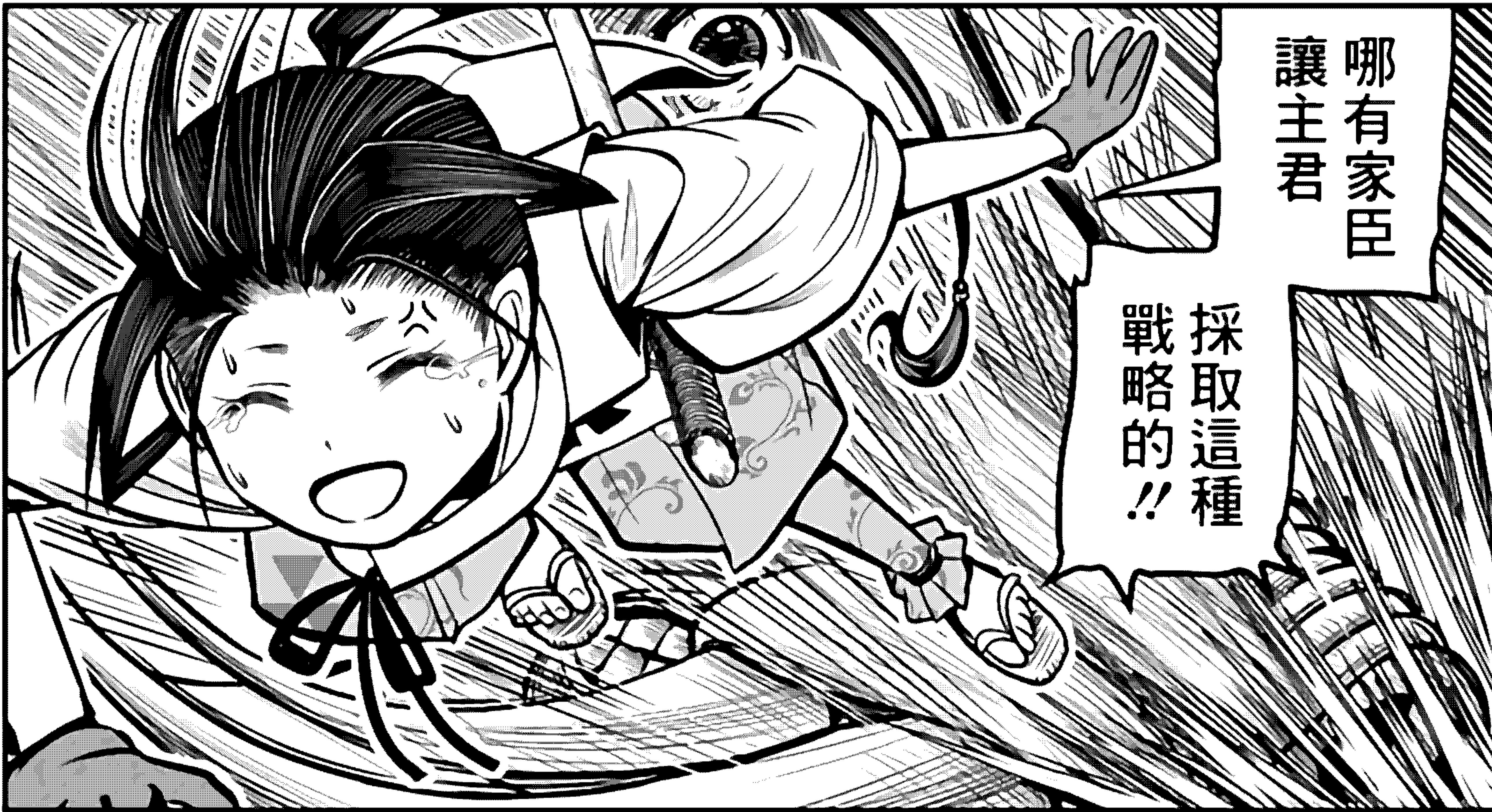
在此期間  
二位就搶先  
繞到山丘上

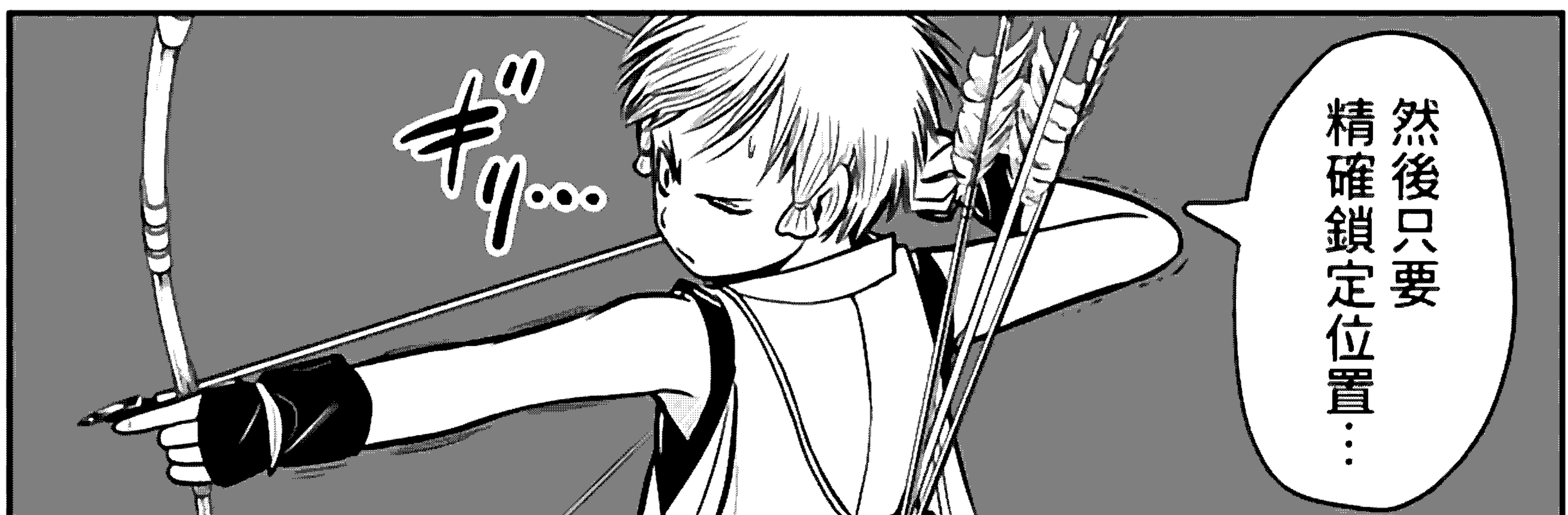
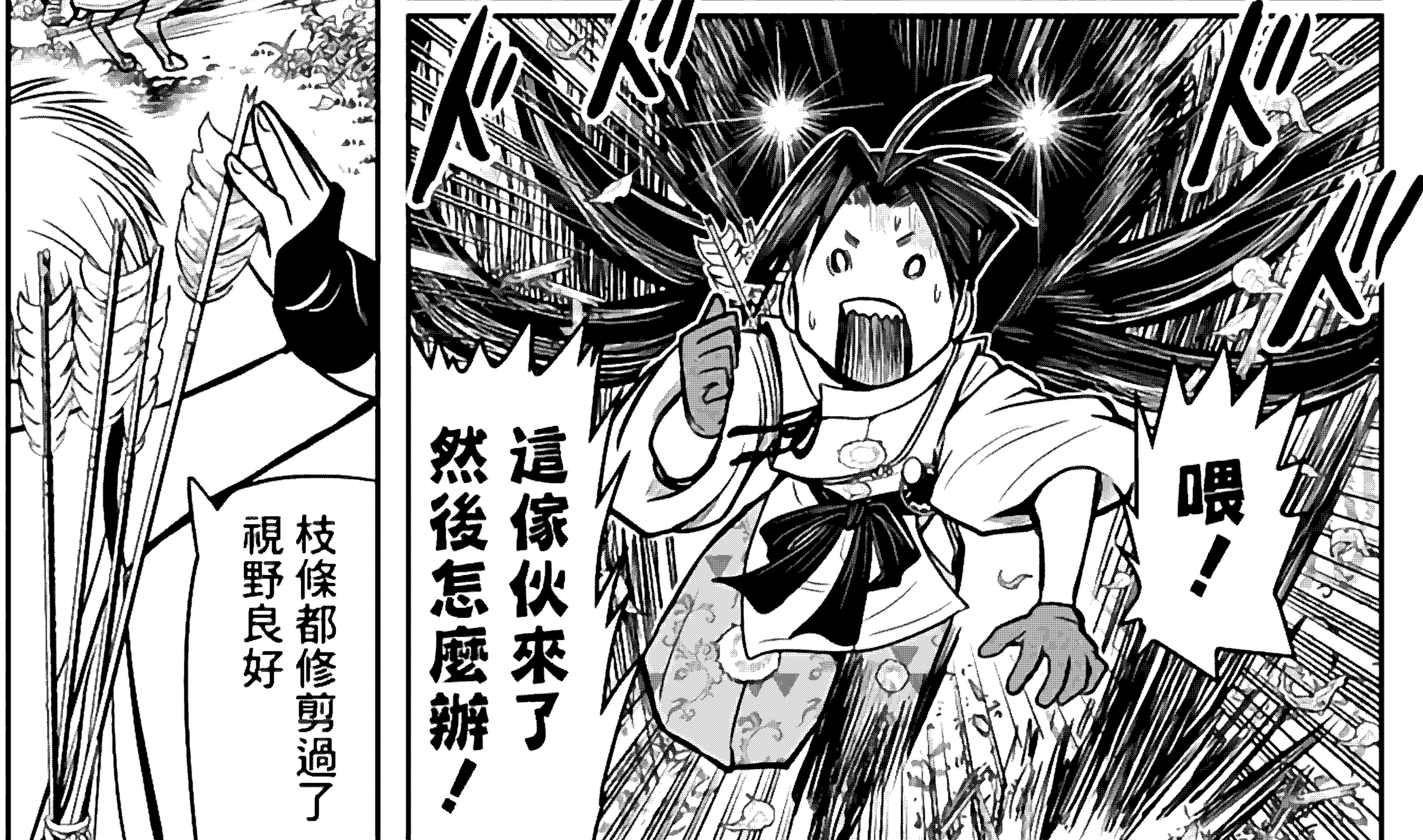
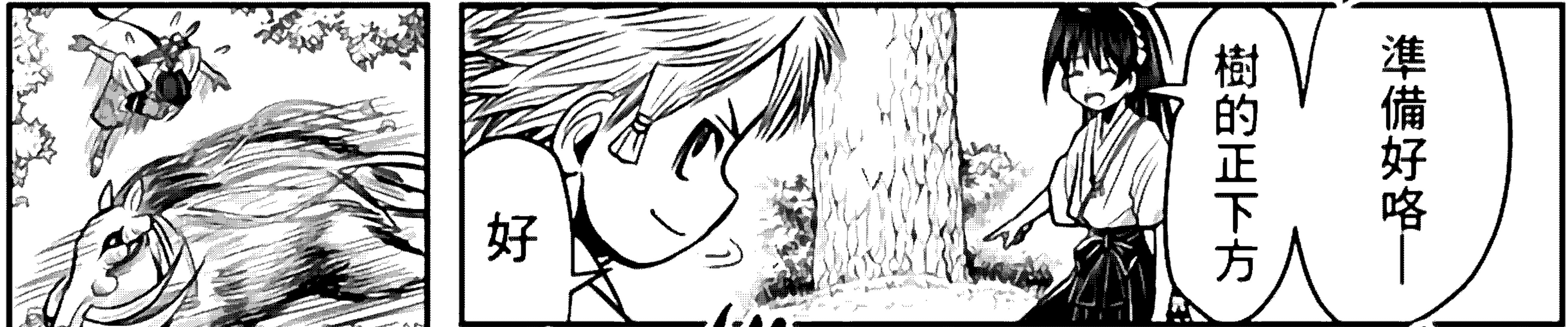
你們很清楚

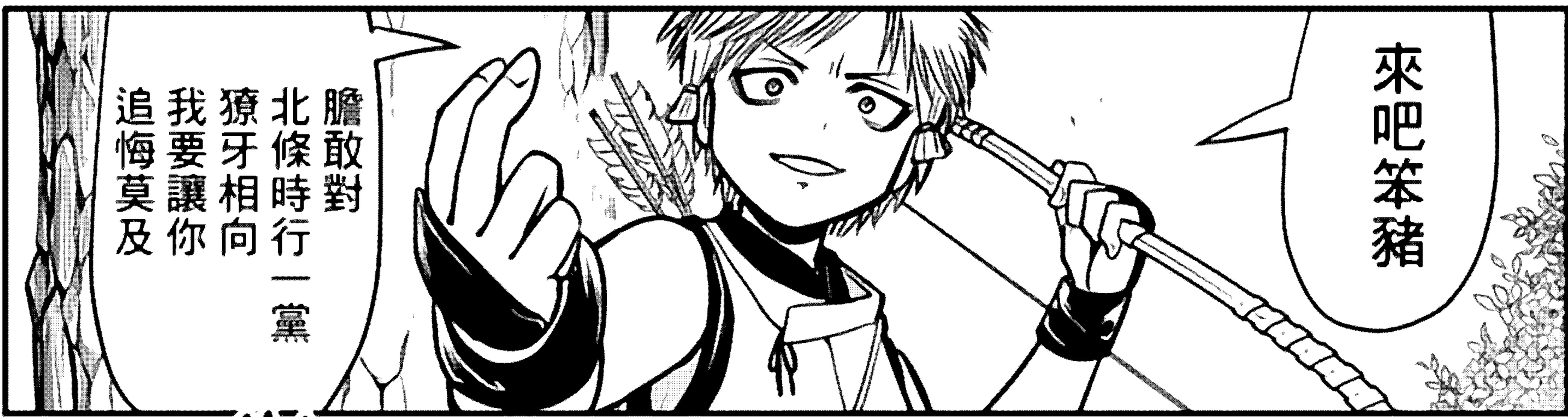
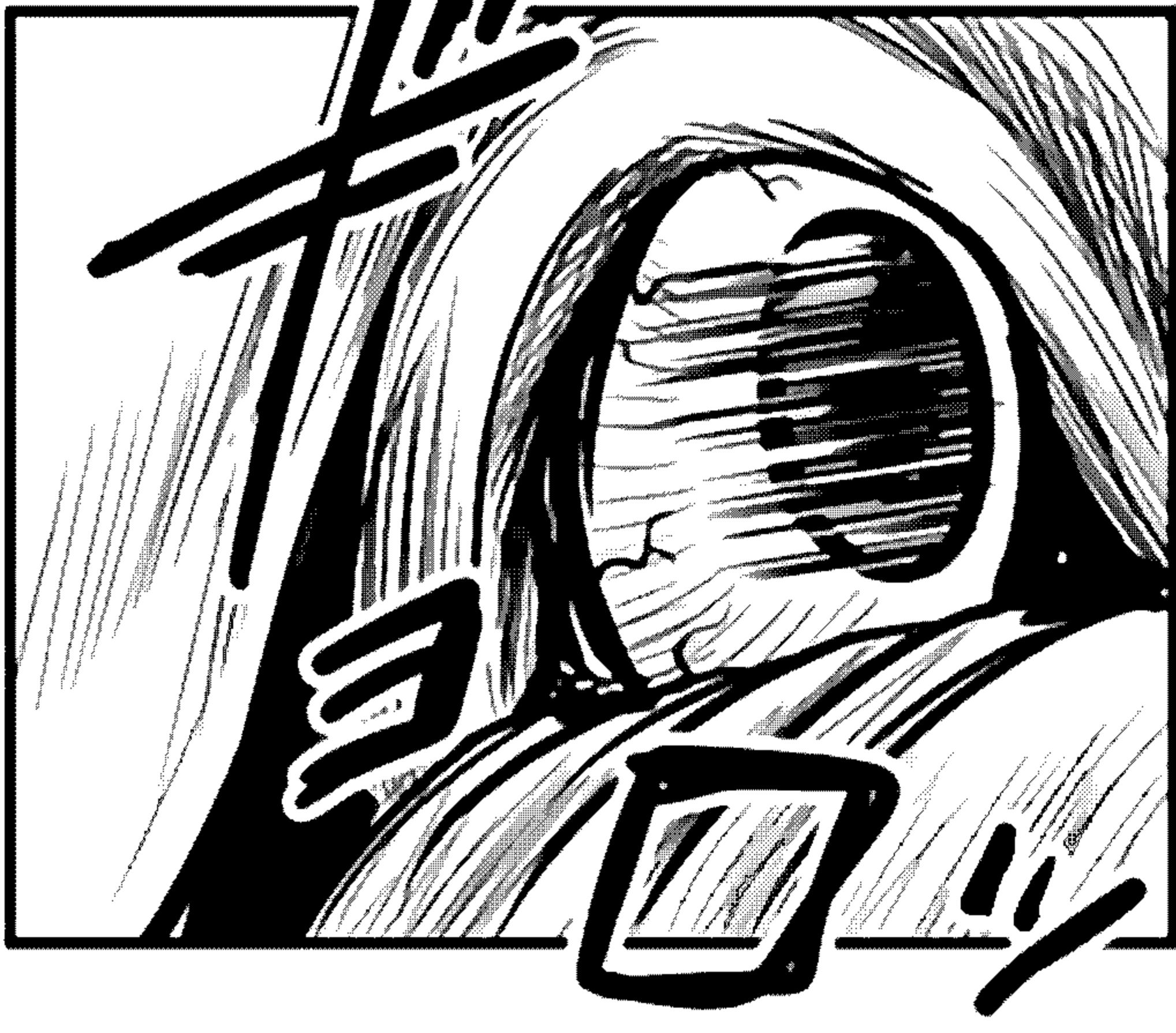
那棵樹下  
有什麼吧

……原來如此  
我知道你  
想幹什麼了

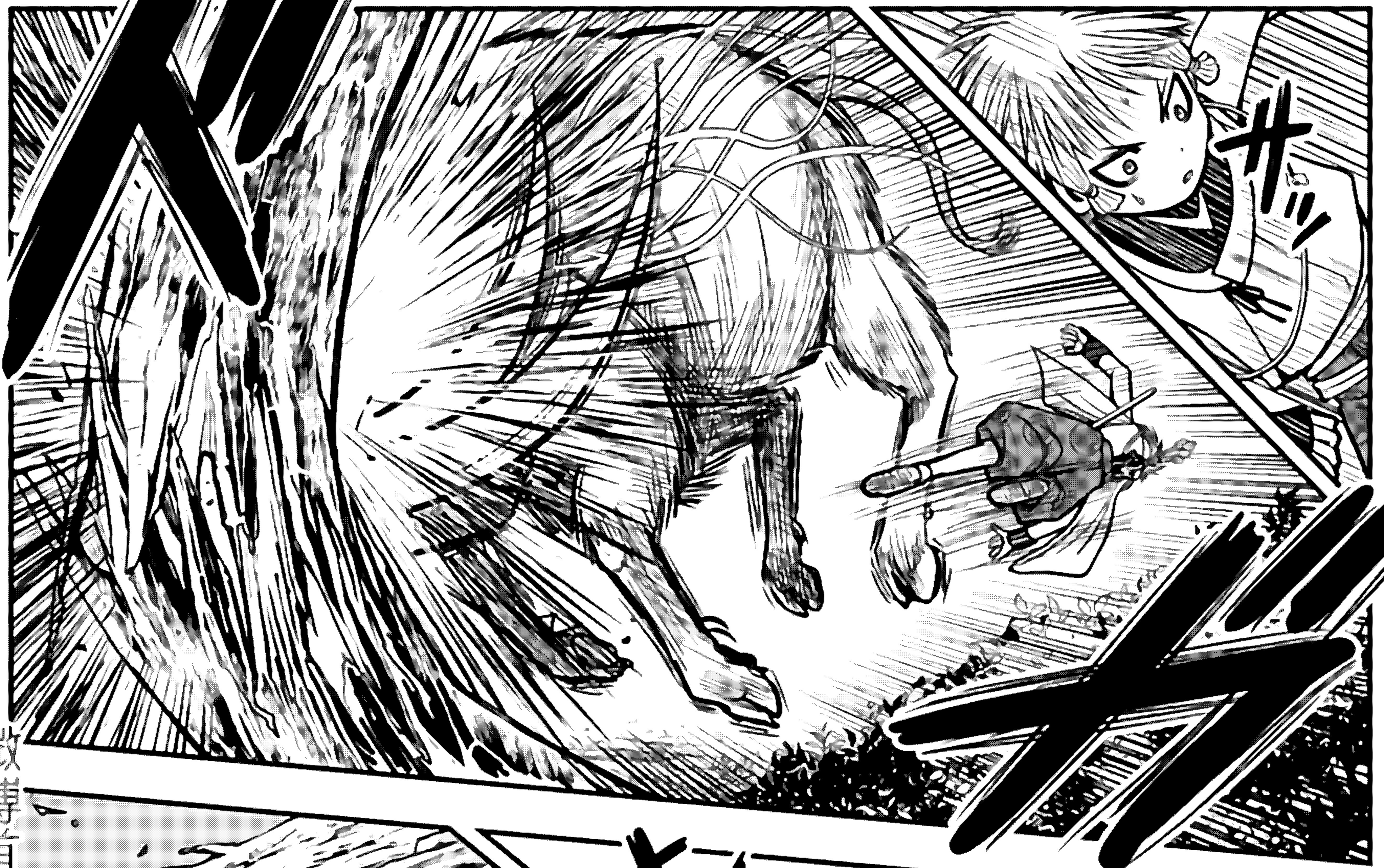








測試群  
翻譯  
校對  
監製  
嵌字  
桐  
澤澤  
古台殘丘



微博首发

禁轉微信

營利&講漫禁用

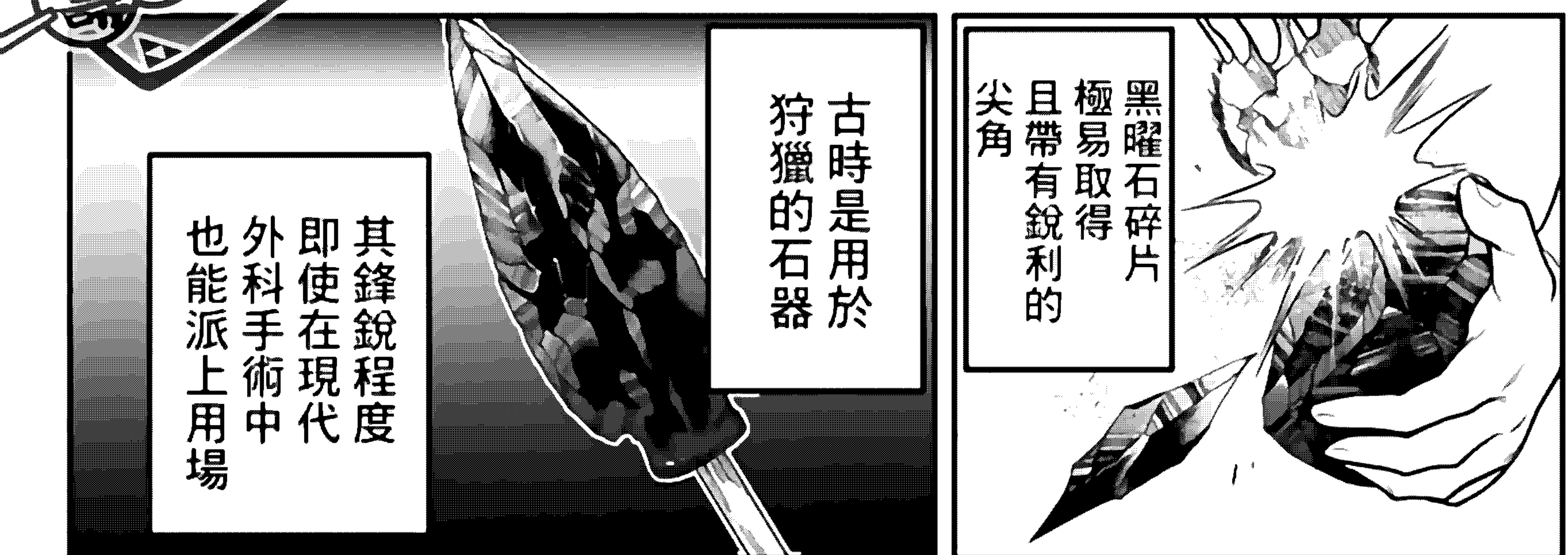
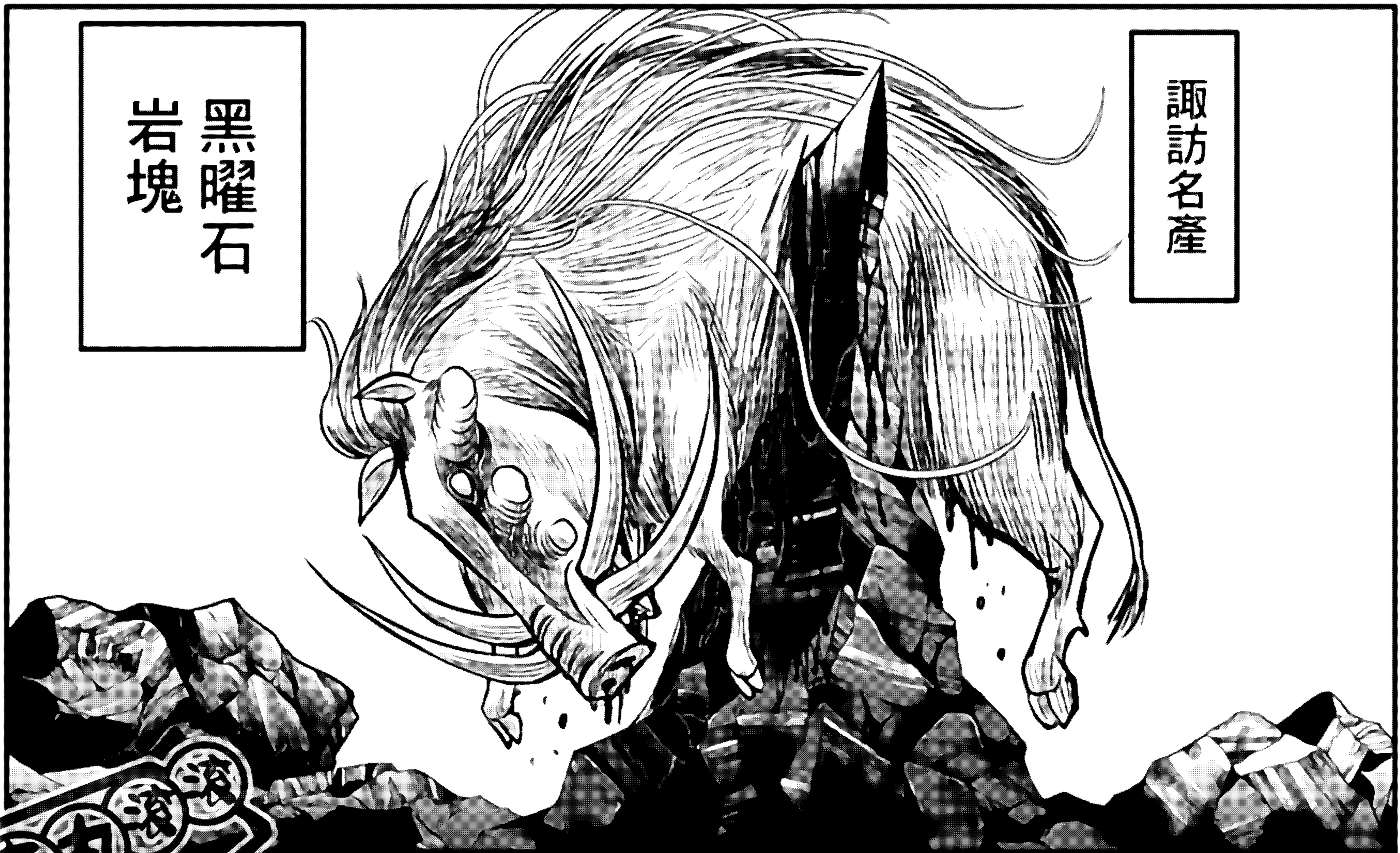
但很抱歉

下面矗立的  
是神明的利刃

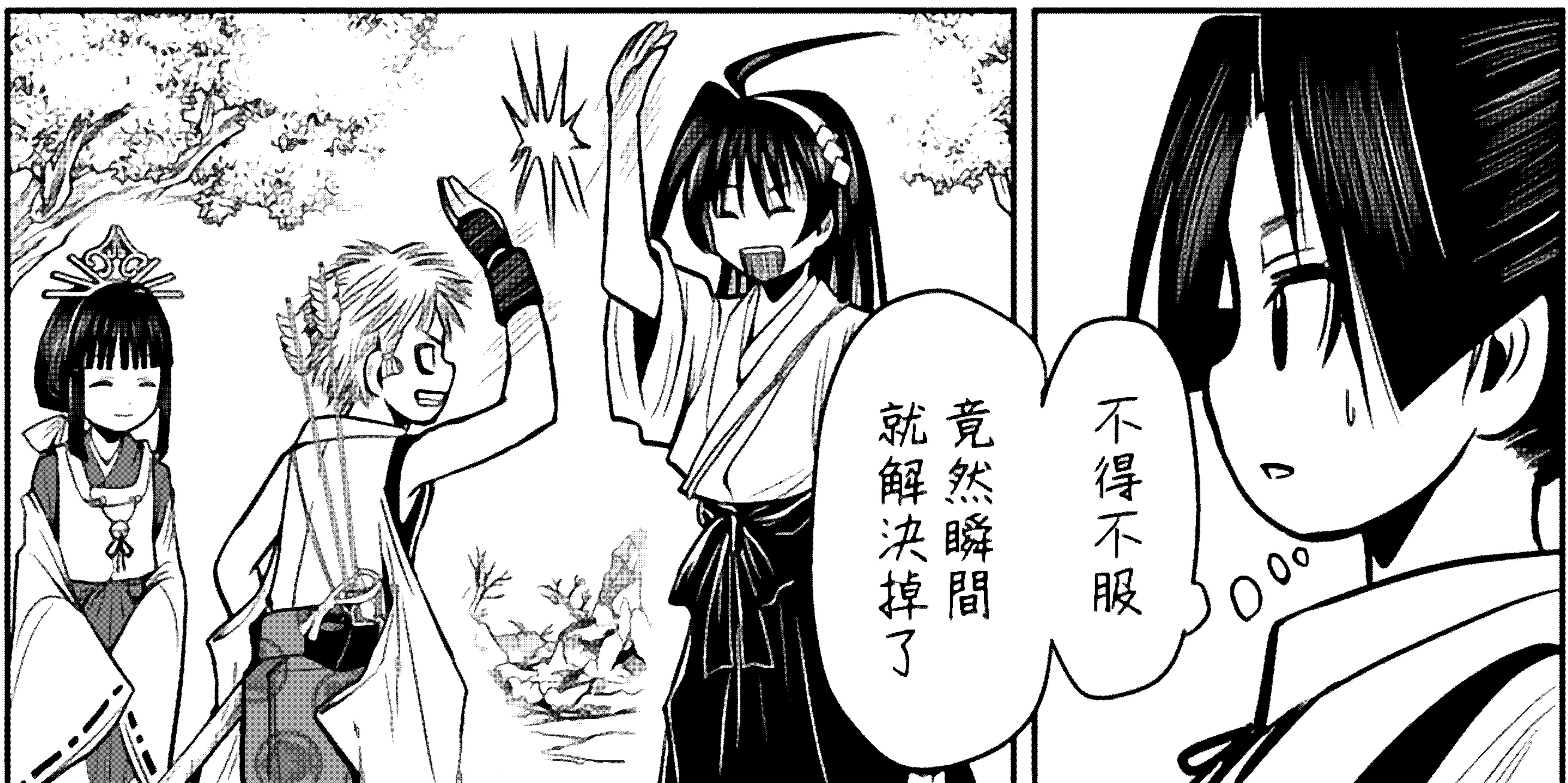


諏訪名產

岩塊  
黑曜石



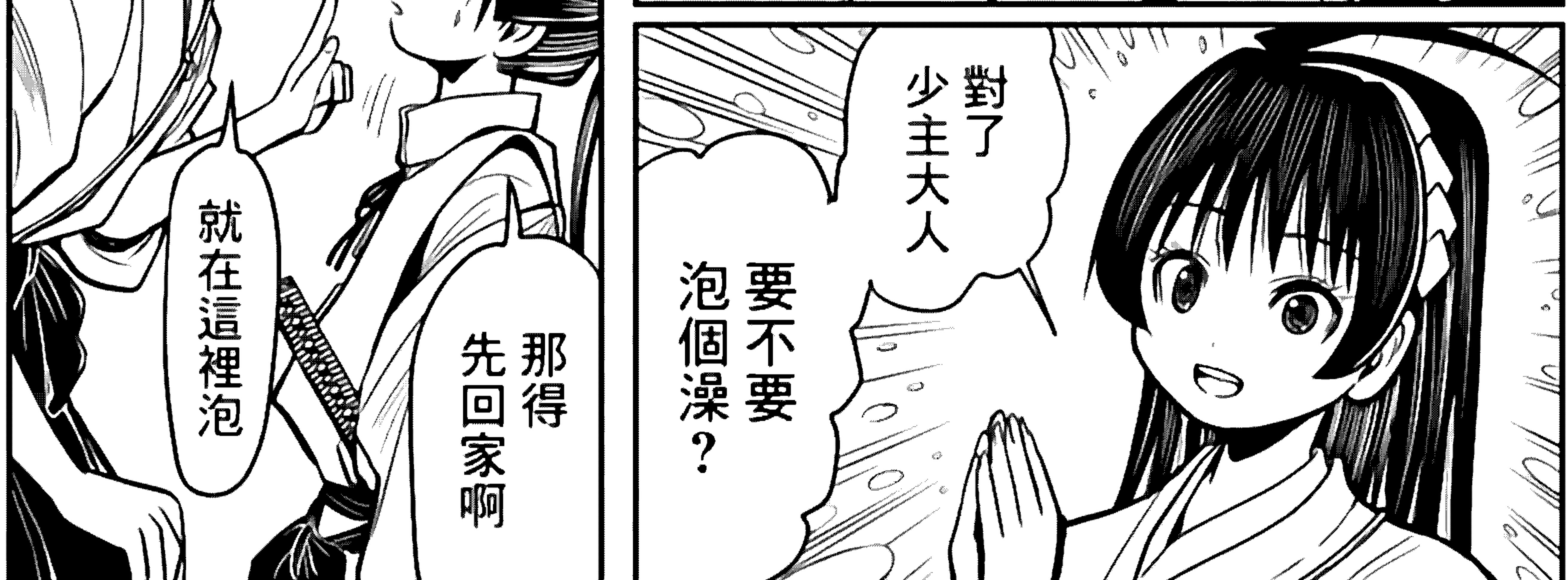
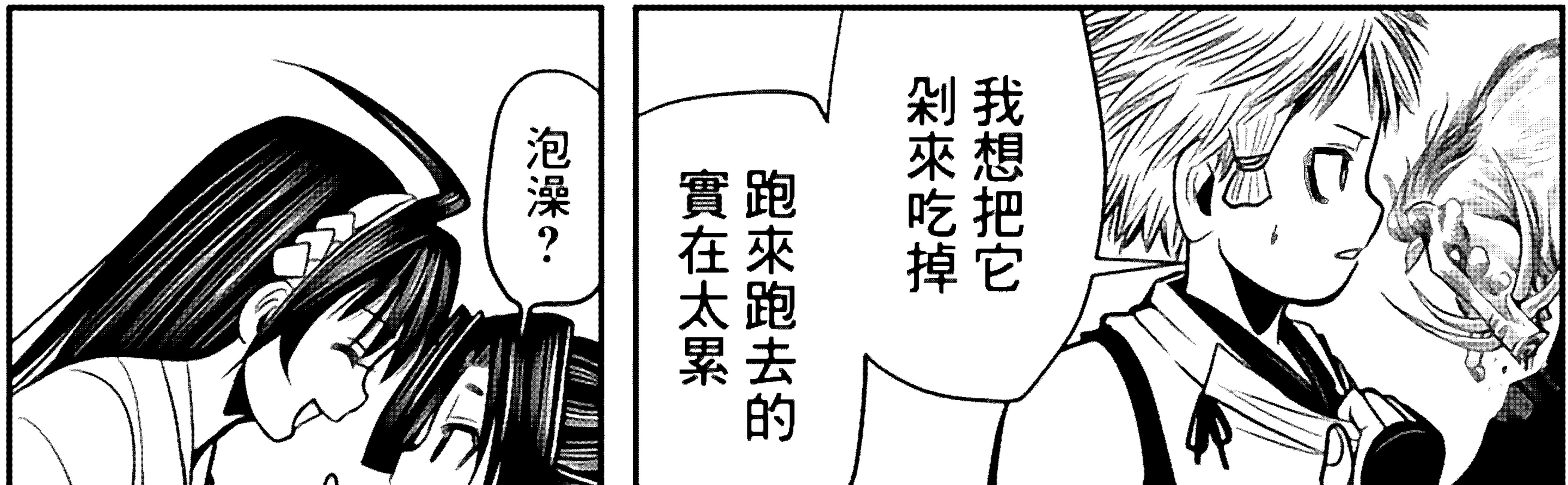
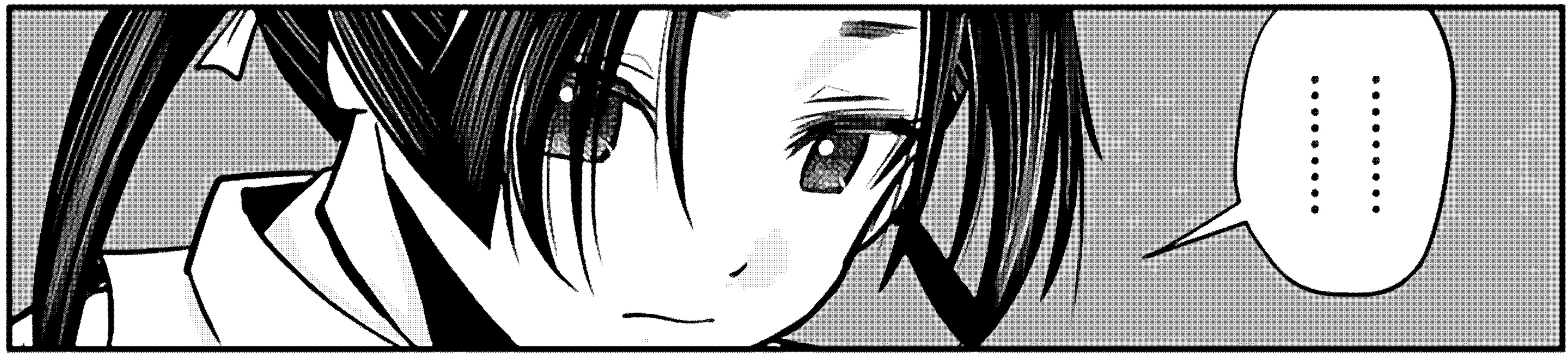
其鋒銳程度  
即使在現代  
外科手術中  
也能派上用場

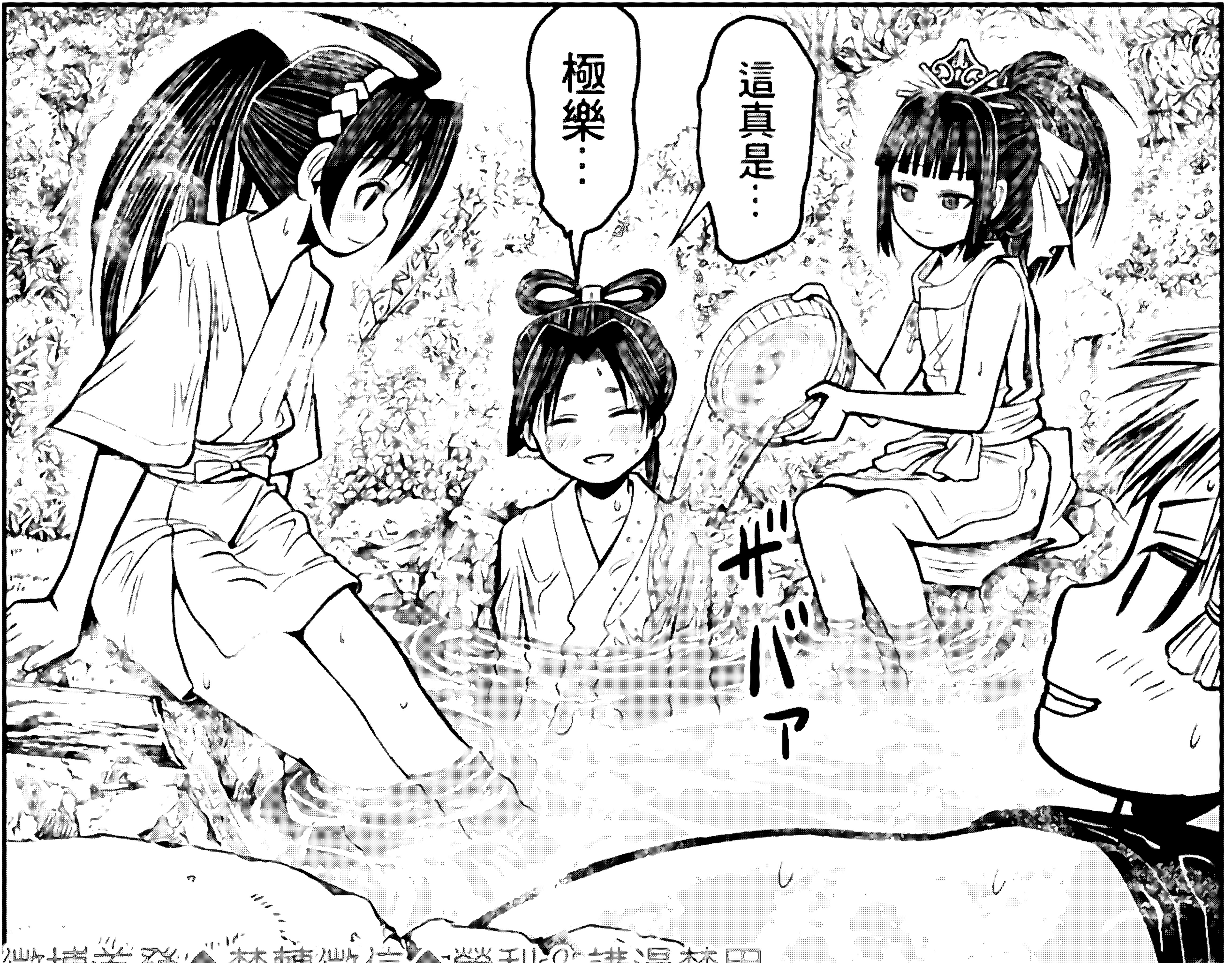




雖然  
弓箭效果很弱  
但他們各有所長  
臨機應變







微博首發◆禁轉微信◆營利&講漫禁用

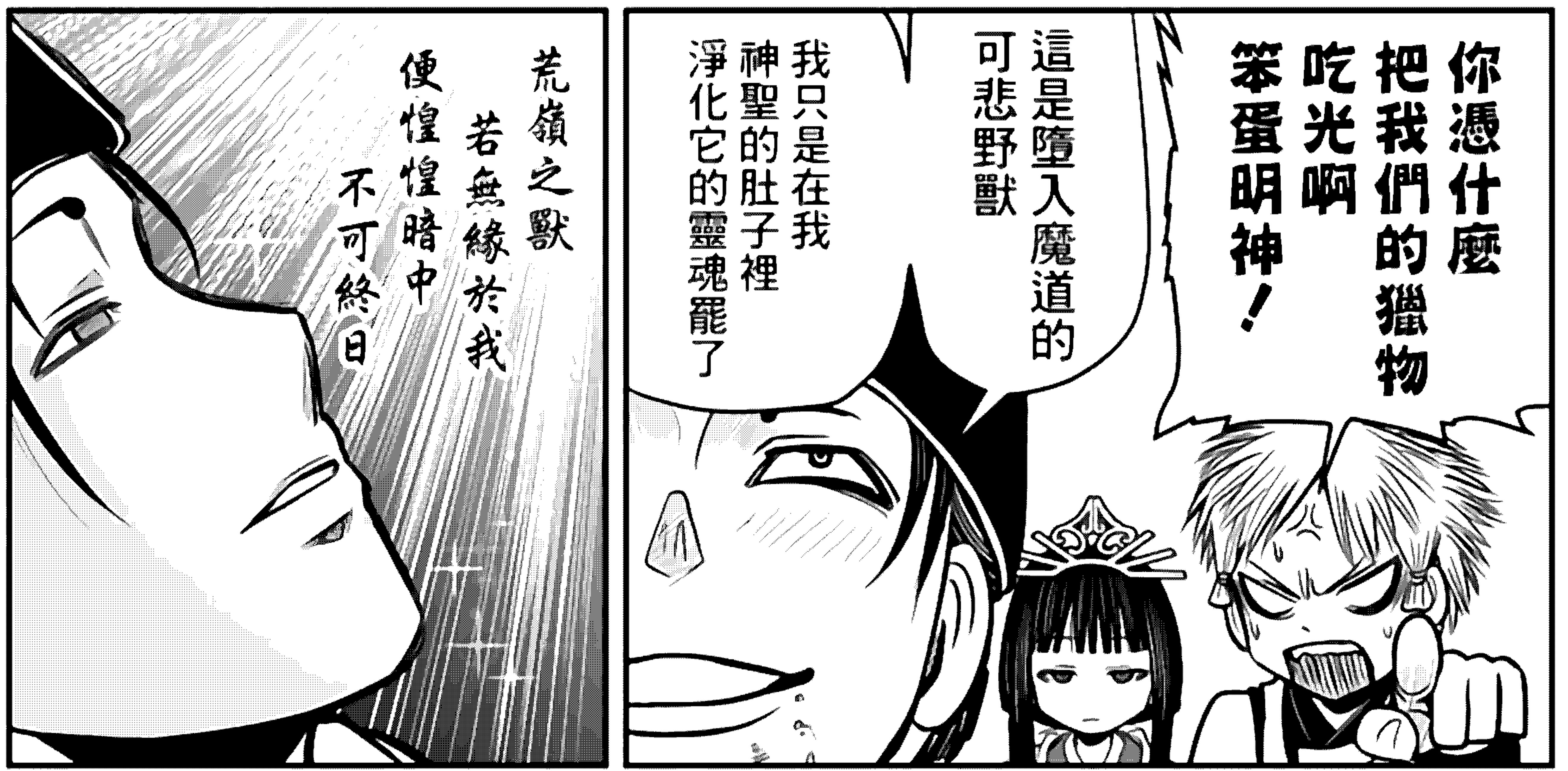




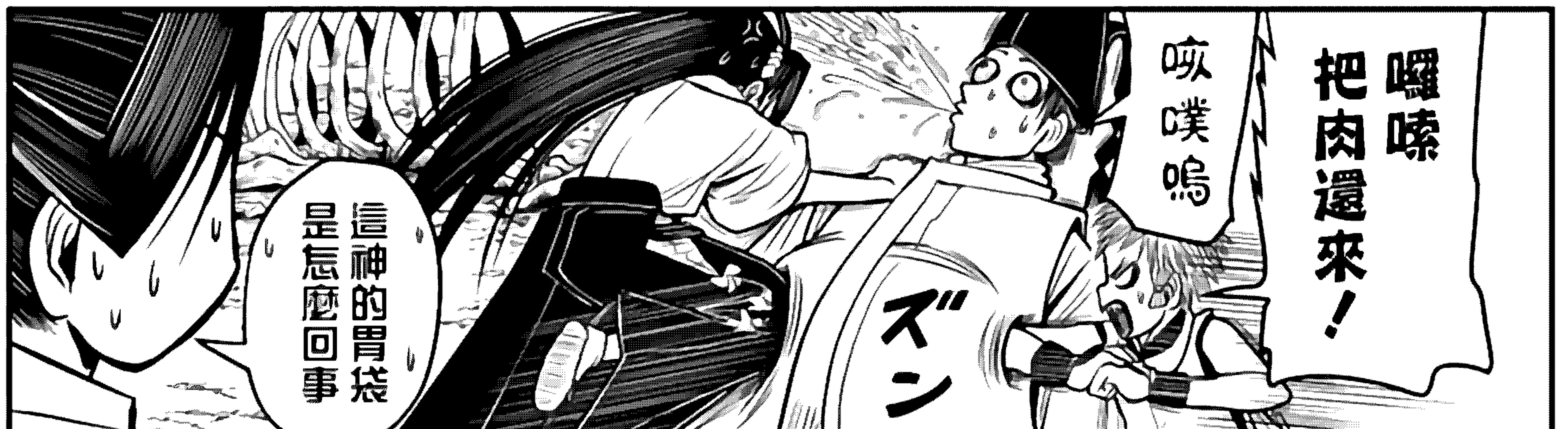


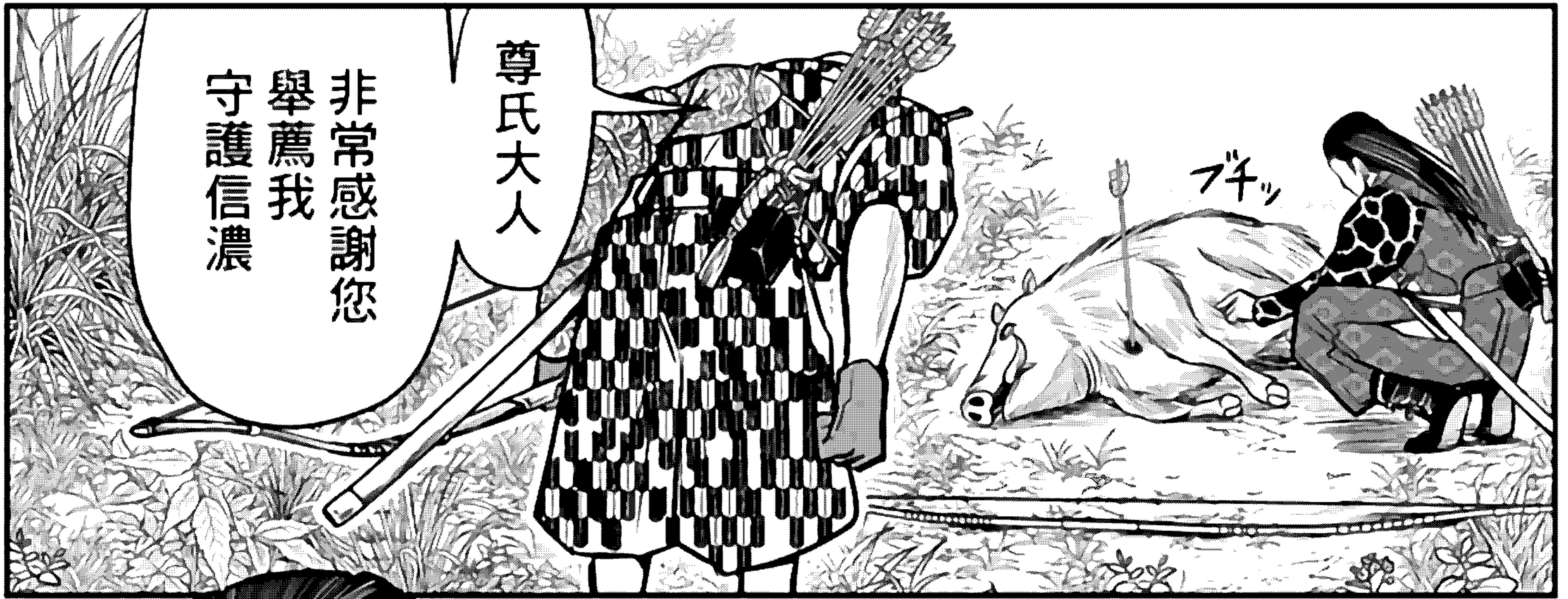
微博首发◆禁轉微信◆營利&講漫禁用



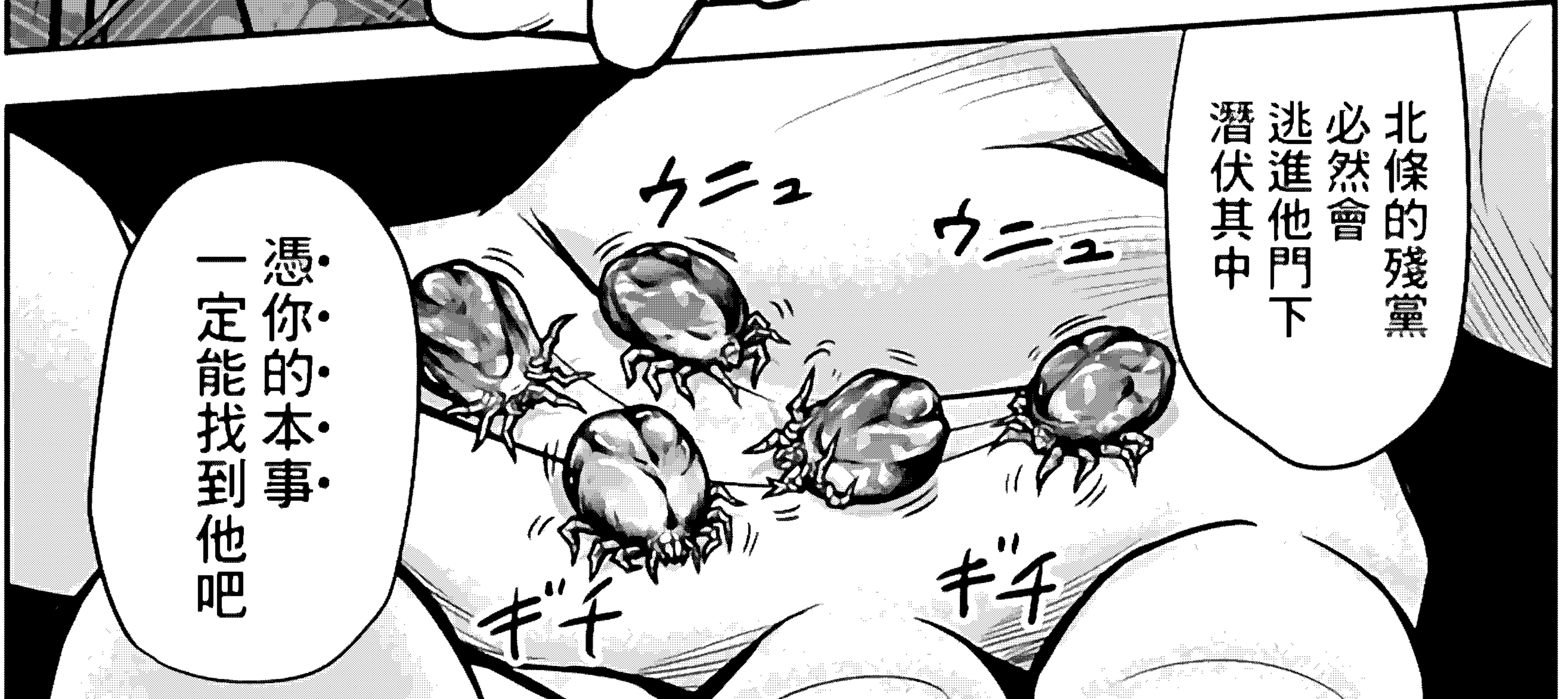
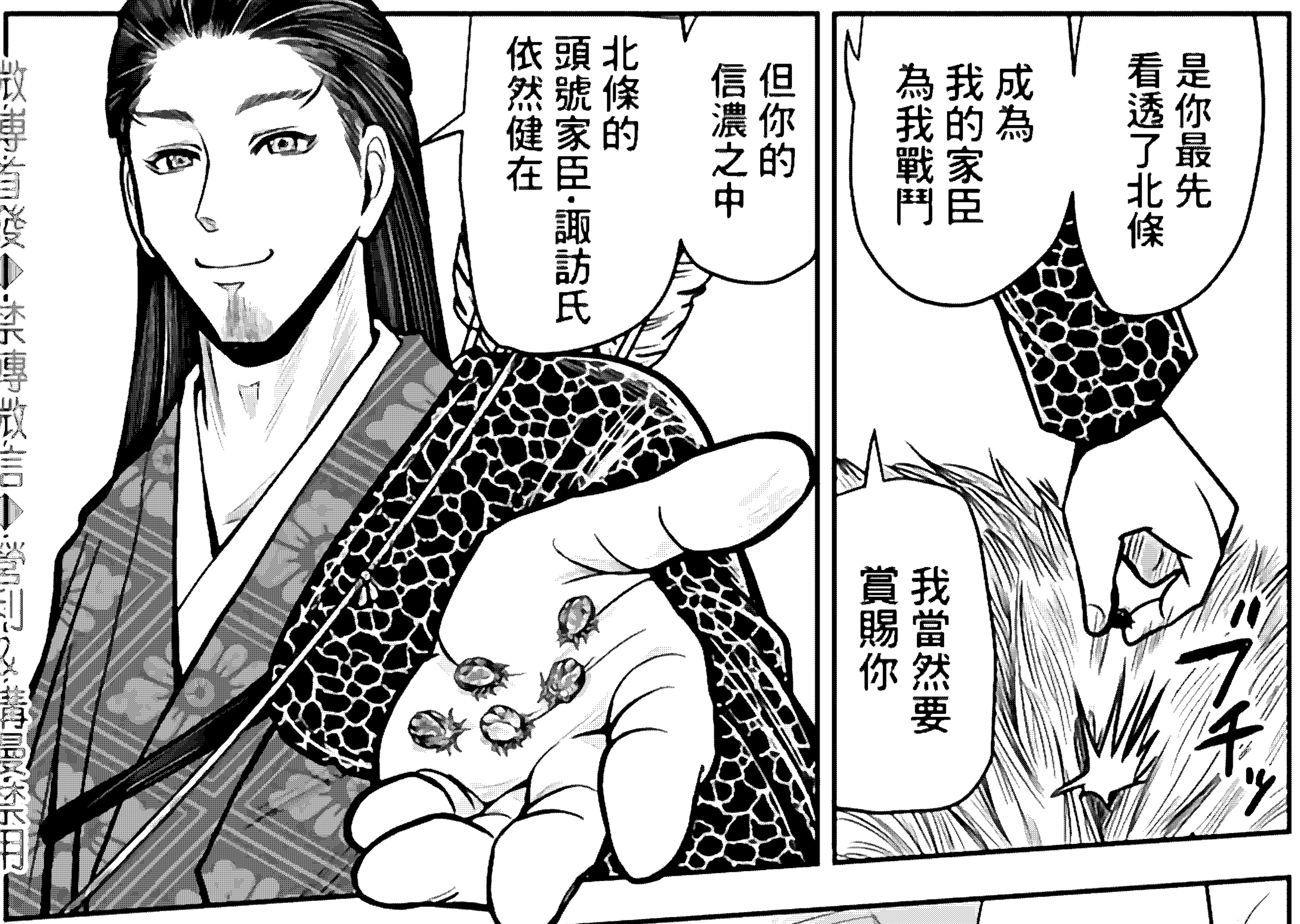


\*要是我不吃它，这隻野獸會永遠在黑暗中徘徊





微博首发◆禁转微信◆便利又講道德用





※相當於如今的縣知事



# 解説上手 古今

南北朝鬼ごっこ列伝

時行達が苦しめられた牡丹。当時の肉食に  
今回は迫っていこう。

本郷和人

1960年 亀有生まれ。歴史の専攻院で  
ある東京大学史料編纂所の教授。おつちよ  
こちよいでテレビや雑誌にも出演する。

その式 牡丹

中世の肉食に迫る!!

壹

日本人の身長は?

これを解くために当時の人々の体格を知るところから始めましょう。いま日本の成人男子の平均身長は170センチくらいでしょうか。じゃあ昔はどうだったか。それを知るために、遺骨を調査すると手取り早いわけです。その結果分かったことは、古墳時代はそれなりに大きい。男性平均163センチ。ところがここから、右肩下かりに数値が低下していく。平安時代初期の平均161センチ、同末期は157センチ。江戸時代になると、155センチ。それで、明治になると反転して大きくなり始め、現代にいたります。

どうしてそうなった? 動物性タンパク質の摂取との連関が指摘されています。6世紀に日本にやって来た仏教は、生き物を殺すことは罪深いからダメ、と食きました。これを殺生禁断といいます。そのため、日本では肉食がタブーになった。鳥は食べて良い。鬼は「〇羽」と数えるように、鳥扱いとするのでオッケー。けれども、イノシシやシカは食べてはいけない。牛、馬、犬もダメ。それでタンパク質不足になり、日本人の身長は縮んでいった。

貳

武士とは何物か?

こう説明されると、それなりに分かったような気になります。でも、よく分からないことがある。その1、おなかがすいたら、何でも食べないか? そうですよね。たとえば天敵が不順で米が収穫できなかった。江戸時代には多くの飢死者がいました。そうした切羽詰まった状況では人肉を、なんて話までありますので、動物を食べなかつたとは考えられません。ただし、これは、平時と非常時は分けて考えようよ、ということです。

武士は平安時代に生まれました。生命財産を自分で守る。そのために武装する。それが武士です。じゃあ、刀を見て兜をかぶれば、武士と認められるか。そんなに簡単ではありません。大狩に出場して初めて、武士なのです。

當時、國(今なら県)を治める役人は京都からやってくる国司(さとし)がいまの県知事でした。任期は4年。国司は任期中に一度、その土地の神さまに感謝を捧げるべく、大々的な狩猟を催す。これが国司主催の「大狩」で、このセレモニーへの参加を許可された者が、すなわち武士なのです。だから、武士は狩りができるけれども、鳥を乗りこなし、弓を操らねばならない。そして狩りで収穫した獲物、イノシシやシカは神さまへの捧げ物になりました。

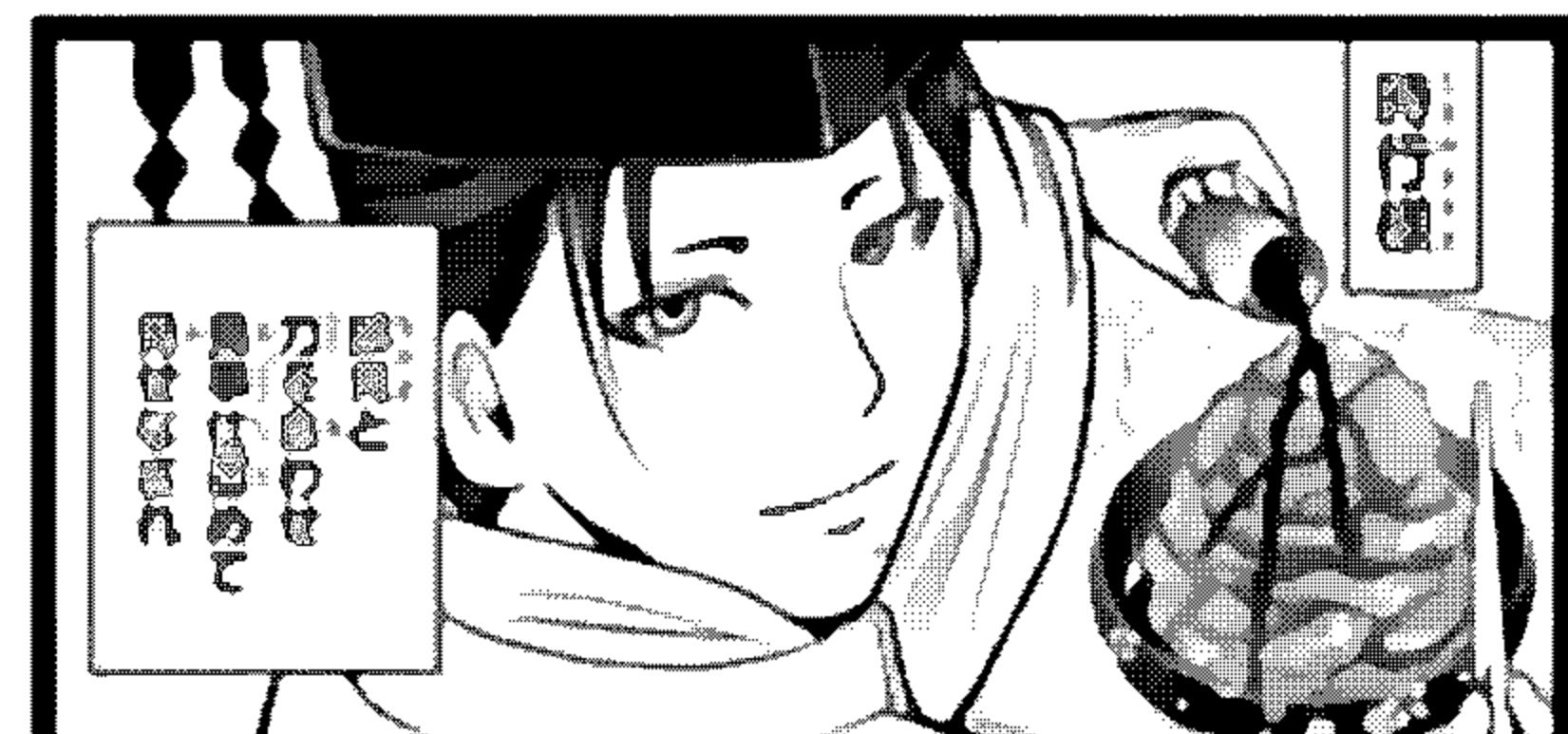
こうして生まれた武士ですから、自分の土地で狩りを催し、狩猟の腕を磨いた。イノシシやシカをとっていたのです。さて、ここで。せっかく手に入れた獲物を食べなかつたのかな? 窮らせて捨てた? それはもったいない。やっぱり食べたと思うのですよね。調味料としては塩しかありませんけど、焼いたり煮たりして塩味で食べる。すると、片手は必ずあります。魚とは違ったおいしさがある。ならば、月一くらいで狩りをしてイノシシやシカを仕留め、肉は塩漬けにして食卓に…。いやあ、いつもは食べてないから、骨が低くなつていったんですね…。武士の食卓に肉があった、というような資料はありませんし、常食にしていた形跡はない。なぜだろう? 校生禁断の教えが徹底していたから? どうもよく分かりません。答えが出てないのです。



参

頬訪の神様の特異な性格

頬訪地方には数多くの縄文遺跡があります。頬訪という湖があり、木々の恵も豊か。飲み水があって、いつでも火をおこせる。人が住むのに適していて、古い時代から開けた地域。それが頬訪でした。頬訪神社については説明する機會が別にあると思いますので詳述はしませんが、狩猟文化の息吹が残るこの地域の神さま、頬訪大社には他には見られない特徴がありました。それは肉が供物になること。古くは神と仏は別々に存在しましたので、仏教の殺生禁断は、神社にも影響を与えます。神社の境内はやはり殺生のけがれを嫌います。ですから、神さまに「海のもの」として魚をお供えすることはあっても、「山のもの」にイノシシやシカの肉は含まれません。ところが、頬訪の神さまは「生け贋」を求めるのです。そこが特徴です。こうしてみていくと、時行が化けイノシシの牡丹と戦うことは、実に駄目の一言になります。ぶじに牡丹を倒したあつきには、みんなでおいしく「ほたん鍋」かな。朝重どのは神官でもあります、そういうわけで、イノシシ肉に存分に舌鼓を打つんじゃないかな。いただきまーす。



↑時行達が北狩と戦闘中でも肩に舌鼓を打つ顛景。

翻譯

我不做人了

毒丸滾滾漢化

## 卷末語

至今沒懂的句子：

amazon的

『按下這裡就能撕掉膠帶』

校對

古今分殘丘

首發微博  
◎混成連合會

歡迎加入漢化

安字

測試群

648466051

桐ri  
澤澤

順位 13 / 21

W J 2 0 2 1 N O . 13

少主溜得快

第六話

整製

三十二